



有功社シトー貿易株式会社
代表取締役チーフディレクター

谷口有三氏

今こそ天然由来の板紙、段ボールを用いて新たな市場を創る時
今年も皆さまと一緒にエキサイティングな年にしたい

明けましておめでとうござい
ます。
組合員の皆さま、読者の皆さま

まにおかれましては今年こそ新
型コロナも終息して元の調子に
戻って欲しいとの思いで迎えら
れた新年かと存じます。

昨年を振り返りますと弊社の
お客様においては明暗が分か
れ、例えばお土産物、化粧品等
に関連するパッケージを生産さ
れる事業所さんは打撃を受け、
家庭向け食品、通販、テイクア
ウトに関連したところは増加、
と社会のうごきがそのまま鏡の
ように映し出されました。

総じてみれば日本製紙連合会
がまとめた「パッケージング用
紙」の内需は昨年1240万ト
ンで前年比マイナス5・9%の

見込みのとおり、弊社にとつて
も副資材販売は呼応して厳しい
結果となりました。

今年にはコロナの第6波を抑止
することで経済回復、パッケー
ジ需要回復を期待しますが、気
になる変化は一気にネット購
買、脱店舗化が進み、この変化
がどう我々に影響するかにあ
ります。

すなわち、店頭販売で求めら
れたパッケージの仕様と通販で
も求められるそれとは全く異
なると思案します。こうした大
きな流れが我々にどのような影
響を及ぼすのか注視しなければ
なりません。

いっぽうで我々の産業にとつ
て大きなビジネスチャンスは世
界的ムーブメントとなっている

SDGs、とりわけ脱プラスチック
クへの実際的な取り組みがあり
ます。これが環境先進国におい
ては既に追い風となっており、
我々もこの波に乗らない手はな
いと思います。

弊社ではSDGs、新価値創造
事業グループを立ち上げ海外の
紙器、段ボール会社はどんな活
動、製品作りを展開しているか
リサーチを始めました。とりわ
けEU（欧州連合）では深刻
なプラスチックによる海洋汚染
からプラスチックを排除する法
整備が進み、紙化率向上につな
がっています。

こうした思想を基に2020
年は段ボール製診察ブース『ど
こでも発熱外来』、昨年は段
ボール製容器にこだわった観光

土産『渋沢栄一翁に捧げるロシ
アケーキ』をプロデュースさせ
て頂きました。この取り組みが
弊社にもたらす利益は極めて小
さいですが、次へのステップに
なりました。

残念ながらパッケージング用
紙（包装用紙、白板紙、段ボ
ール）の内需はこの10年間、完全
な横這い状態です。今後、人口
減少が加速すると下降線を辿る
こととなります。今こそ天然由
来の板紙、段ボールを用いて新
たな市場を創る時と思ってお
ります。

今年も皆さまと一緒にエキサ
イティングな年にしたいと思
いますので、引き続きご指導、ご
鞭撻のほど宜しくお願い致しま
す。